



HILLOCK

dm edition

For Adult Only

mechi

オックスフォードの街外れのカフェ、『HILLOCK』に辿り着いたのは、たまたまだった。執筆にすっかり煮詰まった僕が、思いつきに任せてオックスフォード行き電車に飛び乗ったのは、先週の金曜日のこと。

オックスフォードには、縁もゆかりも、何か特別な事情や思い入れがあるわけでもない。気分を変えられるならどこでもよかったが、世界屈指の大都市の雰囲気当てられて筆が乗るかもしれないし、アカデミックな場所柄、必要な資料や文献も手に入りやすいだろう。…このスランプで、必要な時がくればの話だが。

それくらい考えたが、あては見事に外れた。市街地は観光ルートバスが1周50分で巡回する規模で、3日も観れば満足して、街にも慣れ始めたが、それだけだった。この間、数ある図書館でもカフェでも公園やガーデンのベンチでも、もちろんホテルでも、これという理想的な執筆場所には巡り会えず、残念ながら、書く気はさっぱり起きなかった。

滞在5日目の火曜日。

ロンドンからここまで、天気は湿りがちで気まぐれだったが、今日はよく晴れた青空がどこまでも広がっていた。

爽やかな風に誘われて、街を出てみようと思いついた僕は、レンタサイクルを借りた。

オックスフォードは、テムズ川とチャーウエル川の合流点にある。まずは街の周回を目指して南と東の緑地と川沿いを巡り、北側の住宅街を突っ切った。それから、西を南北に走る鉄道沿いをしばらく南下すると、住宅地に街らしきが出てきたジェリコという所で、線路の西に広がるコッツウォルズの丘陵地へと渡る陸橋が現れた。

時間は昼を過ぎて、そろそろ腹が減っていた。

街中に戻ろうと考えた時、ふと、陸橋のたもとに置かれたスタンド看板が目に入った。

カフェやパブのエントランスによくある、チョークで